

群馬県スクールカウンセラー応募用紙の記入等について

群馬県教育委員会

- 1 応募資格のエ、オの方については、「卒業した大学（院）等」については、卒業あるいは修了証書の「写し」を添付してください。

なお、令和8年度、群馬県スクールカウンセラーとして学校に勤務されている方は、添付の必要はありません。

- 2 「職歴」については、時系列で記載してください。書き切れない場合は、直近の職歴や主な職歴に絞って枠の範囲内に収まるように記載してください。 ※別紙の提出は不要

- 3 「応募資格」については、募集要項の「2 応募資格(3)」のア～カの中から該当するものを一つ選び、括弧内に○をつけてください。

- 4 「資格」については、相談業務に関するものを中心に記載（令和8年10月1日現在）してください。

なお、応募資格のア、イ、カに関する資格（公認心理師・臨床心理士、精神科医、医師）については、資格を証するものの「写し」を添付してください。

※公認心理師、臨床心理士の両資格を有する方は、両資格とも写しを添付してください。

※期限のある資格については、期限が記載されている（令和8年10月1日現在が期限内であることが分かる）ものの「写し」を添付してください。

- 5 「心理臨床業務又は児童生徒を対象とした相談業務の経歴」については、「所属・職名・分掌」等、業務内容に関する情報を簡潔に記載してください。状況により、経歴を証するものの「写し」等を求める場合があります。なお、教育相談に関する研究や研修を目的としたものや、教諭等の業務の一環として行った相談業務は対象外です。

書き切れない場合は、主な経歴に絞って枠の範囲内に収まるように記載してください。 ※別紙の提出は不要

- 6 「得意とする相談種別」には、御自身が得意とする相談種別（相談内容）を記入してください。相談種別は、例えば、「家庭問題（子育て・児童虐待・児童福祉等）」「非行・問題行動（暴力等）」「悩み（いじめ・不登校等）」「こころとからだ（精神保健・人権等）」「職域（職業相談等）」などのように記入してください。

- 7 「勤務可能地域」については、該当する管内を○で囲んでください（複数可）。各教育事務所が所管する市町村は、以下のとおりです。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 中部教育事務所（前橋市、伊勢崎市、渋川市、玉村町、吉岡町、榛東村）・ 西部教育事務所（高崎市、藤岡市、富岡市、安中市、下仁田町、甘楽町、神流町、上野村、南牧村）・ 吾妻教育事務所（中之条町、長野原町、東吾妻町、草津町、嬬恋村、高山村）・ 利根教育事務所（沼田市、みなかみ町、片品村、川場村、昭和村）・ 東部教育事務所（桐生市、太田市、館林市、みどり市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町） |
|---|

- 8 「勤務可能形態」については、該当する形態に○をつけてください。また、勤務可能な形態が複数ある場合には、希望する順位を○の中にお書きください（①、②のように）。

- 9 「勤務可能校種」については、該当する校種を○で囲んでください（複数可）。

高等学校については、全日制、定時制、通信制の勤務可能種類別に○で囲んでください。

- 10 新規応募者で、応募資格 エへカ に該当する場合、レポート1とレポート2をまとめ、両方とも同封してください。

レポート1＝「相談事例」 1例を次に示す書式（項目の設定を含む）に沿ってまとめてください。

○書式・・・A4判縦（横書き）40字40行4枚以内 **※書式にしたがって作成すること**

レポート1「相談事例」

（主題）〈例〉自己中心的で集団に適応できない生徒への援助・指導

1 対象児童生徒 ※匿名にする 〈例〉○学年 男子（A男）

指導者の立場 ※自分の立場を書く ○○○○（相談員等）

2 問題の概要

※問題の概要を客観的、具体的に、事実に基づいて書く。

3 問題の理解に必要な資料

※観察や面接、健康診断など、多方面から収集した資料の中から、理解や指導に直接関係する資料を書く。

〈例〉（1）家族構成・家庭環境

（2）学校での様子

（3）諸検査

4 問題の理解

※資料を総合的に検討して、問題の原因・要因などを理解する。

（どうして問題が発生したか。問題を持続させているものは何か）

「問題の理解に必要な資料」に基づいて理解する。

5 指導方針

※「問題の理解」に基づいて指導方針を立てる。

どのような方法で指導を進めるのかを具体的に書く。

必要に応じて、指導計画の項目を立てて書く。

〈例〉（1）A男に対して

（2）母親に対して

6 指導経過

※「指導方針」に基づいて指導を実践し、その内容を具体的に記述する。

できるだけ相手と自分、周りとのやりとりの中で、対象児童生徒の変容を捉える。

時間の経過に沿って書く。

7 まとめと今後の課題

※対象児童生徒の問題行動の変容を「問題の理解」「指導方針」「指導経過」と関連付けてまとめる。

※本（相談）事例をとおして、何を学び、これからの（自分の）相談活動にどう生かすかを記述する。

住所 ○○○○○○

氏名 ○ ○ ○ ○

レポート2＝「教職員の教育相談技術向上のためにスクールカウンセラーができること」

○書式・・・A4判縦（横書き）40字40行2枚以内 ※書式にしたがって作成すること

レポート2「教職員の教育相談技術向上のためにスクールカウンセラーができること」

※記述様式は自由

住所 ○○○○○○

氏名 ○ ○ ○ ○

応募される際には、書類選考結果連絡用として、連絡用封筒に110円切手を貼付し、住所、氏名を御記入の上同封してください。

※レポート最終ページの右下に、住所及び氏名を記入する。

※テーマ、住所、氏名は、書式（40行）に含める。